２０２３年6月５日

俳句の会「芦火」

☆柑蘆同人誌「芦火」第７１２号（六月号）表紙

・夏の季語：「梅雨晴れ」（仲夏・時候）
・来月号（七月号）の兼題です。

梅雨の最中にふと晴天がのぞくことを言います。洗濯物を干したり、梅干しを並べたりと梅雨の最中の貴重な日差しであり、気持ちの良いものです。

有名俳人の句に以下のようなものがあります。
・梅雨晴やところどころに蟻の道／正岡子規
・梅雨晴や野球知らねばラヂオ消す／及川貞
・梅雨晴間リモコン飛行機競ひ合う／田中こずえ
・梅雨晴間絶えて久しき友来る／高浜虚子
・かみそりのやうな風来る梅雨晴間／星野立子
・しつかりと降りしつかりと梅雨晴間／後藤夜半
・もぎ立ての梅を漬けませ梅雨晴間／高澤良一

☆前月の清記表に記載の中から選ばれた高得点句（５点以上）

・前月の７１２号で清記表に記載された１６名の１１２句のなかから互選で高得点を獲得した句です。
・花冷えや心を去らぬ嘘ひとつ／要　・・・・８点

＊以下は４点句（惜しい！もう少しで５点）です。
・花吹雪き去年は二人で見しものを／草炎
・道問ふて小路に消える春日傘／要
・若衆の締め込み眩し夏祭り／善富
・愚図る子に廻して見せる風車／温州
・赤ん坊の公園デビュー風光る／恵吾
・野遊びの莫蓙にどっしり母の尻／甲舟
・教科書の聡太・翔平風薫る／勝

☆トピックス
『ニホンオオカミ』の剥製・・・同人との関りについて

海外に１体、国内に３体しかない貴重なニホンオオカミの剥製の１体が、和歌山県海南市船尾の県立自然博物館で展示されていますが、これは和歌山大学教育学部の所有で博物館に寄託しているものだそうです。
ニホンオオカミは、明治３８年に奈良県東吉野村で捕獲されたのを最後に目撃された記録がなく、絶滅したとされているそうで、国内の残り２体は国立科学博物館、東京大学農学部で収蔵されているとのことです。

さて、この海南市の県立自然博物館に寄託されているニホンオオカミの剥製が、芦火同人の北草炎さん（本名・北道子さん・大学５期）が幼少の頃深く関わっていたということが、彼女が所属されているエッセイストクラブの文集「水脈」に掲載されていますのでその一部を紹介します。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

理科準備室　　北　道子

十二月初めの朝日新聞･教育欄に、珍しい写真が載っていた。ニホンオオカミのはく製だ。
ニホンオオカミは、嘗ては本州、四国、九州に分布していたが、明治三十八年（１９０５）年以降捕獲例がなく、絶滅種とされている。はく製も三種しかなく、写真のものは、和歌山県立自然博物館の物だそうだ。
そんな珍しく貴重な物とは知らず、毎日このはく製にはたきをかけていた女の子がいた。それが私である。

学校の理科準備室の掃除は和歌山師範学校の二年生がするものだったようだ。ところが、昭和二十一（一九四六）年、教育基本法、学校教育法の公布により、六・三・三・四制男女共学の新しい教育制度の下で師範学校がなくなった。おそらくその際、師範学校の理科準備室に在った狼のはく製は行き場を失い、小学校の理科準備室に預けられたと思われる。掃除当番も師範学校の生徒がいなくなったので、小学校の六年生に割り当てられたのだろう。
大事な預かりものを、暴れたくてしようのない男の子に任すのはどうかと先生がたは心配し、女の子に決めたらしい。
ところが女の子は理科準備室の掃除を嫌がった。ホルマリン漬けのいろんな生物の標本や、骸骨の模型、人体の構造を示す人形など気味の悪い物がやたらと置かれている。授業に使う実験道具、気圧計や温度、湿度計などなど、うっかり落としたり壊したりすれば大変なもの

がすらりと並んでいる。特に人体図や人形は気味が悪い。
　私はどうかというと、好奇心が強く、観察好きときているので、理科準備室へ行くのは面白かった。
　棚の上に乗せられたオオカミのはく製は、極めて珍しく大事なものだから気を付けて扱うようにと特に注意があった。犬好きの私には犬や猫と同等に見えて、はたきでちりを払うなど、同じように扱っていた。
「小浦（私の旧姓）さんが一緒の班でよかったー。私らが嫌いなこと、やってもらえるもん」と友達は喜んでくれるし、私は準備室の「物」が面白いし、当番の日が待ち遠しかった。
　中学一年生になっても校舎はまだできず、クラスも男女共学になっただけで生徒の顔ぶれは変わらない。流石に、「女子だけ」に理科準備室の掃除をさせるわけにもいかず、理科担当の先生のクラスに、掃除担当を割り当てることにしたという。そのクラスの生徒だった私は、こうしてまた、オオカミや、ホルマリン漬けの標本や、骸骨人形や、実験道具とつきあうことになった。私は喜んで当番の日はせっせと掃除をし、気圧計触りたさに友達にくっついて理科準備室に出入りした。
　そのうちに、気圧、温度、湿度の記録は毎日私がやるようになってしまった。それで先生は、私に掃除や記録の為に準備室へ入ることを許可し、いつでも鍵を貸してくれた。また、夏休み中は、気圧計（温度計、湿度計もついている）を家へ持って帰るよう、計らってくれた。
　　二年生になると、新しい校舎ができたので、私たちはそこへ移動した。
それ以来、あの理科準備室に入ったことはない。ニホンオオカミともお別れで、もう二度と会うことはなかった。　　二〇二〇・十二・十五

＊＊

＜俳句の会「芦火」概要＞

・会員は柑芦会会員
・現在の会員は大学３期卒から２５期卒の１８名
・昭和３８年（１９６３年）結成・・・約６０年の歴史
・会員の作句は通信俳句誌「柑蘆同人誌・芦火」に掲載され毎月各人に配付
・創刊以降毎月発刊。令和４年（２０２２年）６月に第７００号発刊。
・５０号ごとに句誌を発刊。令和４年５月に「芦火第１４号句集」発刊
・創刊時からの延べ会員数、７２名（高商３２名、高商教授１名、大学３９名）

＜編集者・コンタクト先および会費＞

・編集者：穂永　千秋（大学１７期）（俳号：穂心）
　　メルアド：suishin2010@dream.ocn.ne.jp／携帯：090-9887-2513
・その他のコンタクト先;
　　・山下　勝（大学１４期・前編集者）（俳号：勝）
　　メルアド：yama723@nifty.com／携帯：090-1349-6727
　　・平林　義康（大学２０期）（俳号：温州）
　　メルアド：hirabayashi9497@yahoo.co.jp／携帯：090-8525-7293
・会費：年会費１万２千円

以上

（文責：平林　温州）